

令和5年度第4回福島県環境影響評価審査会
議事概要

(令和6年3月4日開催)

1 日 時

令和6年3月4日（月） 10時00分～10時45分

2 場 所

杉妻会館3階「石楠花」（福島市杉妻町3-45）

3 議 事

（仮称）大熊ウインドファーム事業環境影響評価方法書

4 出席者等

- （1）環境影響評価審査会 8名
- （2）事業者 4名
- （3）事務局 3名
- （4）傍聴人 4名

5 議事概要

議題については、福島県環境影響評価審査会長を議長として審議を進めた。

- (仮称) 大熊ウインドファーム事業環境影響評価方法書
事業者が事業概要の説明及び審査会委員・専門委員から事前に質問した事項に対する回答を行い、その後、以下のとおり質疑応答を行った。

【審査会委員・専門委員】

事前質問 No.1 について、土壌のA層、B層という御説明※がありました。この質問は土壌の下、岩盤層についての質問でした。

設置する際に土台の基面を出されると思いますが、基面を素掘りした際に、例えば事前質問にあるような塩基性岩、斑レイ岩等があると、場合によっては発破やピックを用いなければ掘削ができないものと思われます。

もし、ピックを使うと相当な騒音が出ることから、使用の可能性について事前に把握されないか、そのような工法も考慮されたうえで検討されているか、という点を伺うため、この質問をしました。

※ 事前質問 No.1 への回答の際に、事業者から次の補足説明あり。

土質調査は、風化が進んだ土壌の表面A層ではなく、土地の改変によって新たに表層になると想定されるB層から採取を行うこととしており、同じ地層であればB層の土質は大きく変わらないという考えから、代表地点として6号機地点を設定した。

【事業者】

御質問いただいた点は、まだ考慮できておらず、今後ボーリング調査等を実施した上で、検討していければと思っています。

【審査会委員・専門委員】

ボーリングの調査地点について、地質図はかなり荒いものをお使いになられているようですが、専門の方から見ると(地層が)伸びていてもおかしくないような形状を示していることから、その確認もしていただいて、工事の際にそういう可能性があれば、何ヶ所か調べた方が対応できますから、事前に把握されていた方が良いと思います。

表層地質についても、日隠山は塩基性岩の岩盤が飛び出しているような場所であると思いますので、先ほどお話したような地質が存在すると工事の際に音がでる可能性があることから、確認していただきたいと思った次第です。

【事業者】

はい、貴重な御意見ありがとうございます。

基礎のところでは2本ずつとか、ピンポイントで行うことになると思いますので、今いただいた御意見を踏まえ、大きな音が出るような際の対応を含めて考えていければと思います。

【審査会委員・専門委員】

沈砂池に関する意見です。

沈砂池からの排水を土壌浸透させる計画となっていますが、浸透能力は土の種類によって大きく変わります。

浄化槽の排水方法に土壌トレンチという方法があります。土を掘削して砂利を敷き、その上にパイプを通して排水する構造ですが、浄化槽の基準ではこの構造の場合、浸透能力を1メートル当たり100リットル/日とするとなっています。

今回の場合は、浄化槽よりもきれいな水が流れることから、浸透能力は1メートル当たり500リットルや1トン/日程度になると思いますが、土壌の浸透能力は簡単に測定できますので、調査して準備書に記載するのが正しいと思います。

もう一点、委員から放射性物質について、いくつか御指摘がありますが、沈砂池の維持管理の状況、放射性物質の濃度がどうなっているか、といった点も建設工事を終え、発電所が動き始めた後に自己評価という形でデータを整理し、提示いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

【事業者】

御意見ありがとうございます。

1点目の浸透能力調査については、御指摘を踏まえ土地の浸透の調査を実施いたします。

2点目の沈砂池の管理又は放射能濃度の測定につきましては、事前質問の回答にもありますとおり、工事当初に沈砂池に溜まった土砂につきましては放射性物質を測定しますので、その結果につきましては事後評価として示すようにします。

【審査会委員・専門委員】

それと事後評価では、維持管理の状況、沈砂池の蓄積状況等も調べて記録しておくのと非常に役に立つと思いますから、よろしく願いいたします。

【事業者】

承知いたしました。

【審査会委員・専門委員】

今の委員の指摘についてですが、方法書作成段階では浸透速度の測定について検討されていなかったですか。

【事業者】

方法書作成時点ではそうです。

【審査会委員・専門委員】

今回そういう資料ではなかったの、考慮していただきたいと思います。

【事業者】

はい。

【審査会委員・専門委員】

事前質問の中で委員からも指摘がありますが、住宅地が近いのが気になります。

計画の段階で住宅から離隔を取るという御回答でしたが、距離を取った上で一番近い住宅地の騒音測定ですとか、景観シミュレーション等の調査地点に加えていただくと良いのかな、と思っています。

それから人と自然との触れ合いの活動の場である日隠山についても、念のため騒音の測定点としてピックアップしたほうがよろしいと思います。

現在の利用の状況では無く、過去の利用状況も踏まえて少し測定点を増やしていただきたいと思っています。以上です。

【事業者】

御指摘ありがとうございます。

騒音については御指摘のとおり、できる限り風車を離れた計画とした上で騒音の調査予測をしてみたいです。

また、人と自然との触れ合いの活動の場の日隠山に関しましても、まずは関係機関へ聞き取り調査を実施しまして、従前の状況や今後の整備計画等について情報収集いたしまして、騒音の調査についても検討いたします。

【審査会委員・専門委員】

はい、ありがとうございます。

【審査会委員・専門委員】

少し気になったところを確認させてください。

事前質問の回答で「沈砂池の設計は放射性物質を含む土砂を分離し～」とあり、配慮するということですが、具体的にはどのような設計を考えているかお答えください。

【事業者】

すみません。何番の御質問になりますか。

【審査会委員・専門委員】

全般的な事項としてお答え願いたいですが、事前質問 No. 14、15 に当たります。

【事業者】

沈砂池の設計については、特別な設計をするというよりは、一般的に設計させていただいて沈砂池を超えるような上澄みについては、ふとん籠等で流速を抑えるような形で自然と放水するような形態を考えております。

【審査会委員・専門委員】

一般的な設計ということは、特に配慮をしないということですか。

【事業者】

すみません。配慮をしないということでは無く、沈砂池を設置することで、水との分離を行うことを考えているということです。

何か特別な措置があればとは思いますが。

【審査会委員・専門委員】

対象事業実施区域の森林の中は除染されておらず、また、原子力発電所からも近いわけです。

今回の事業でそこに留まっていたはずのものが、外に流出する懸念があるわけですが、そういう懸念に対して「どのような配慮をされていますか」という問いに対し、「普通の措置を講じます」という答えはよろしいのかという確認です。

事前質問への回答には「放射性物質が流出しない設計を～」と書いてあります。その設計はどのようなものかという質問です。

【事業者】

御指摘のとおり放射能濃度が高いところですので、細かな粒子が多く含まれて、移動する可能性もあります。

ガイドライン等もありますので、そういったものを参考として対応できる設備にしたいと考えています。

現時点では方法書段階のため、具体的にはお示しできませんが、準備書段階においては、御指摘のような対策を講じた形での記載に努めたいと考えております。

【審査会委員・専門委員】

はい。それで、今お話しされたように、この沈砂池で阻止できた場合、今度は放射性物質が沈砂池内に蓄積することになるので、（堆積物が）8,000 ベクレルを超えるような濃度となってしまうかもしれない。

そのような点を踏まえて委員は放射線について多く指摘されておりますので、この点は普通以上に配慮していただかないと、周辺地域の賛同・共感は得られないのでは、と我々は懸念しています。

【事業者】

お話のとおり、御指摘の点には地域の特性を十分配慮して対応策を検討したいと思っております。

【審査会委員・専門委員】

また、事前質問 No.6 で「余裕率を持った設計～」とお答えになっているので、具体的にどの程度の余裕率を持つのかを明らかにしていただきたいと思います。

この辺の重々配慮していただかないと、普通の場所ではありませんから、今のやり取りでは心配になりましたので、確認いたしました。

【審査会委員・専門委員】

調査方法について基礎的な事項の確認ですが、「残土の発生量」の予測はドローン等で地形データを計測し、造成工事の設計図と比較して、発生量を予測するのか。どうやって求めるのかが疑問です。今御回答いただけるようであれば、御説明をお願いします。

【事業者】

現時点では等高線図に風車位置、作業道路等を配置し、切土量、盛土量を計算し、残土量を計算するという行っています。

今後、現地調査をする上で、詳細調査として土量計算を行うこととなります。

環境調査結果を踏まえ、例えば植生や鳥類の巣の位置等を踏まえ風力発電機配置を決定していきますので、最終的な風車位置が見えた時点で、もう一度他の調査も含めて計算する予定です。

【審査会委員・専門委員】

参考までに教えていただきたいのですが、ドローン活用の想定はされていますか。

【事業者】

環境影響の調査において、特に想定していません。

【審査会委員・専門委員】

分かりました。

【審査会委員・専門委員】

庁内連絡会議からの事前質問 No.14 で「現在は未造成の状態であるため、造成時は値が大きく異なるものと推定されます」とあります。また、これに加えて、最近は、雨の降り方の予測が難しいところがあります。

回答では10年確率雨量と書いてありますが、この雨量についてもあまり過去の雨量にこだわらないで、最近の大雨は予測が難しい降り方をしていますので、そういった事情に配慮した計画を検討していただきたい。

具体的に何年確率を採用するか、という点はお答えしにくいのですが、近年の気候変動を考慮した計画、30年間稼働させるとなると30年後の雨量を想定して計画すべきですので、そういった配慮をお願いと思いますが、いかがでしょうか。

【事業者】

御指摘ありがとうございます。

御指摘を踏まえ、過去の雨量だけにこだわらず、今後30年の雨量に関しても、どのぐらいの雨量になるのかというのも検討して、予測いたします。

【審査会委員・専門委員】

はい。よろしく願いいたします。

※ 以上で質疑応答は終了した。

(3) その他

事務局から、知事意見通知までの手続きについて説明した。

また、時間の都合で指摘できなかった事項、意見を述べるができなかった事項は、後日、事務局からの意見照会等により対応する旨について説明した。